
第2回 ごみ処理基本計画策定検討専門部会 議事録（要旨）

- 1 期日 令和5年7月4日（金曜日）16時40分から18時00分まで
- 2 場所 リーパスプラザこが 歴史資料館 中会議室
- 3 出席委員（6名）

部会長	島岡 隆行	委員	上杉 昌也
委員	渡邊 裕子	委員	小林 智美
委員	花田 徳弘	委員	武田 京子
- 4 傍聴者数 なし
- 5 事務局出席者職氏名
環境課長 吉永 ゆかり 環境課係員 橋爪 恵里
- 6 一般財団法人九州環境管理協会出席者職氏名
環境計画課 藤原 佐保子 環境計画課 真玉 明子
- 7 議題
 - ・現行計画の評価（施策の実績）について
 - ・現行計画の評価（目標指標）について
 - ・施策の体系 素案 について
 - ・第3次古賀市ごみ処理基本計画 構成案 について
- 8 配布資料
（事前配布）
 - ・古賀市環境審議会（ごみ処理部会第2回）次第
 - ・第1回ごみ処理部会指摘事項と対応方針【参考資料1】
 - ・市民アンケート調査・ごみ組成調査・人口構成 補足資料【参考資料2】
 - ・第2次古賀市ごみ処理基本計画 施策の実績【資料1】
 - ・第2次古賀市ごみ処理基本計画 施策の実施状況【資料2】
 - ・現行計画の評価 目標指標【資料3】
 - ・第3次古賀市ごみ処理基本計画 施策の体系（素案）【資料4】
 - ・第3次古賀市ごみ処理基本計画 構成案【資料5】

概要

1. 開会あいさつ

- ・環境課長よりあいさつ。
- ・委員および事務局紹介。

2. 報告事項

- ・第1回ごみ処理部会の指摘事項と対応方針【参考資料1】
- ・補足資料（市民アンケート調査・ごみ組成調査・人口構成）【参考資料2】

3. 議事

(1) 現行計画の評価（施策の実績）について【資料1】【資料2】

- ・資料に基づき、事務局より説明。
- ・質疑・応答。

○上杉委員： 現行計画を評価するのであれば、数値目標の達成状況を示す必要があるのではないか。

●事務局： この項目では現行計画の評価の視点のうち、施策の実績に関する説明を行っている。数値目標についてはこの後説明する。

○渡邊委員： 生ごみ減量のための実態調査を平成31年に実施しているとあるが、結果は公表されているのか。また、ダンボールコンポスト講座を令和2年度に実施しているが、実際に、生ごみ処理をしている人がどれくらいいるか、調べているか。

●事務局： 実態調査については公表していない。ダンボールコンポスト講座は親子向けの講座で令和2年から実施している。講座は2回シリーズで、1回目に説明の上、実際に生ごみを入れてもらい、1か月後の2回目に結果を確認してもらうとともに、参加者にアンケートを取っている。アンケートでは「今後続けていきたい」との回答もいただいているが、その後の確認を行うまでは手が届いていない。どれだけ継続できているかを捉えていくのは今後の課題となる。

(2) 現行計画の評価（目標指標）について【資料3】

- ・資料に基づき、事務局より説明。
- ・質疑・応答。

○島岡部会長： 資料3の「1人1日当たりのごみ処理量」に示す1人当たりというのは、事業系ごみも入っているのか。

●事務局： 家庭系ごみと事業系ごみを合わせた量となっている。

○島岡部会長： これは全国平均からするとかなり低い。全国平均値は約900gであり、本市の目標値である751gはかなり厳しい目標を設定している。資源化率の全国平均値は約20%であり、本市の実績値16.6%は一生懸命取り組んでいる割に低い。統計上、計算上の問題がどこかに残ってい

るのかもしれない。計上方法などをもう少し研究するべきではないか。

(3) 施策の体系 素案 について【資料4】

- ・資料に基づき、事務局より説明。
- ・質疑・応答。

- 小林委員： 外国人に向けての啓発として、これまで英語版パンフレットを作成してきたとのことだが、パンフレットは英語版だけで不足はないか？
- 事務局： 本市に在住する外国人にはベトナムなどアジアの方も多し。パンフレットの話ではないが、外国人向けに出前講座を行っており、この講座では外国語ではなく、できるだけ平易な日本語で説明することで、ごみの分別方法についてご理解いただいている。ご指摘の他言語のパンフレットは今後の課題とさせていただく。印刷物にすると市役所では経費の問題となるので、紙ではなく WEB の活用も今後の時代の流れと合わせて検討する。
- 小林委員： 一度理解しても忘れてしまうこともある。その際に、簡単に確認できることも必要と思う。英語が苦手な方もいるので、いくつか選択肢があると理想的である。
- 上杉委員： 事業者に関わる今後の施策には、情報提供に関するものが多いが、パンフレットなど用意しておいて、事業者（企業）がアプローチしてくるのを待つのか。それともこちらからアクションをかけていくのか。
- 事務局： ごみ減量というテーマで言うと、定期的に多量ごみ排出事業所には古賀市から働きかけて啓発している。フードバンクについては特例で、先方からの話に乗ったケースである。両方面ともバランスをとりながらやっていきたい。
- 上杉委員： ホームページで公開するだけだと意識が高い人しか来ない。プッシュ型で行政の方からアプローチしていくことが必要。今後の取組として情報発信の強化という表現はあっていると思う。
- 事務局： プッシュ型でないと響かせたいところに響かない。そこは工夫がいると思う。
- 渡邊委員： 公式 LINE は市から発信できるのでよいのではないか。
- 事務局： LINE を活用する世代の方にはよいツールである。世代の違い、事業所や家庭などの特性を踏まえて、工夫してツールを見つけていきたい。
- 渡邊委員： 併せて環境アドバイザーの利用がこれまで全くされてないので、これも一緒に発信してほしい。環境アドバイザーによる講座の登録は、まちづくり推進課のまちづくり出前講座の登録か、それとも環境課の講座として登録か。
- 事務局： 現在は環境課の講座としての登録となっている。
- 渡邊委員： 環境課の講座として環境アドバイザーの講座があるということか。
- 事務局： 環境アドバイザーを講師として派遣、たとえばぐりんぐりん古賀の方が講師として出向かれる講座などがある。環境アドバイザーとしての活用

実績がないことが課題であり、工夫していかないといけない。今までのやり方だとまちづくり出前講座で講師が環境アドバイザーからくるとというのが今のスタイルとなっている。

- 渡邊委員： 学校等にアプローチはしているのか？
- 事務局： 年度初めに学校の管理職が集まる会議に出向き、環境アドバイザーの制度を説明し、授業で活用してほしいと提案している。
- 小林委員： そのリアクションはいかがか。
- 事務局： 現実的に難しい状況である。学校では、グリーンカーテンのカリキュラムが根付いているようで、そこにグリーンカーテン以外のものを入れ込むのは難しいようである。先生方もカリキュラムの都合上、グリーンカーテンをしながらもう1つするのか、グリーンカーテンをやめて別のものをするのか、どうするのか難しいところがあると感じている。
- 渡邊委員： 現在グリーンカーテンはぐりんぐりんの手伝いのみ。それ以外はないということか。
- 事務局： そうである。
- 武田委員： グリーンカーテンは「グリーンカーテンの匠」事業で行っていなかったか。
- 渡邊委員： コロナの前は匠で実施していた。ゴーヤを育てて、食にまで進めていた。へちまも育てており、後々スポンジにもなるし、食べることもできる。こちらも検討をお願いしたい。
- 事務局： 小学校の授業に取り入れるならば、座学で聞くよりも体験型の方が子どもたちには有効と思われる。植えてみるとか、食べてみるとか。先生もカリキュラムを組みやすいと推測するので、環境アドバイザーを活かせる講座をしたい。
- 武田委員： ごみ減量に関しては、小学校4年生はエコロの森にごみの学習で行く。行けない人はエコロの森から小学校に出向いて講座をするなど、兼ね合いもあるだろうが検討できないか。
- 小林委員： 関連になると思うが、環境教育普及啓発の充実として、機会を増やす取組を、具体的にどのように行っていくのか、何にトライしていくのか、教えてほしい。
- 事務局： 今のところ、これと強く言えるものがない。学校に出向くとか、ダンボールコンポストのチラシを配るとか、公式 LINE で知らせるなど、使える手段は使っているというのが現状である。
- 小林委員： 何にでもそうだが、掲示だけして声をかけて下さいだと、一番伝わって欲しい人のところには届かない。何か突破口はないか。1番は子どもたちの教育に勝るものはないと思う。そこをなんとか考えられないか。
- 事務局： 他人から言われても響かないが、子どもから言われると効果的なのは確かである。
- 島岡部会長： 緊急に取り組むべきごみの話に、プラスチックごみがある。容器包装のプラスチックではなく、製品ごみに関する施策を入れられるといいので

はないか。

- 事務局： 何らかの形で計画に盛り込みたい。プラスチック製品を分別するという実証実験を行ったが、中間処理に課題があり、現状としてそれ以上進めることができない状態である。組合方式の古賀市は組合等と協議して進める必要がある。実施できると計画の中にストレートに盛り込めない現実がある。玄界環境組合と協力しできるだけいい形で進めたい。何かしらの文章を入れるようにしたい。
- 渡邊委員： 容器包装プラスチック製品はアジアの国が一時受け入れを拒否して問題となったが、プラスチック製品のリサイクルの道というのはあるのか。
- 事務局： 容器包装も同じく、ここというところは決まってははいない。
- 渡邊委員： 市民が手をかけて分別し、お金をかけて搬送するので、その先のリサイクルの方法についても検討していただきたい。
- 事務局： 玄界環境組合の工場施設が今後どうなるかにもよる。施設を更新する際には、プラスチックの中間処理再生について、販路を見据えた構想を議論する必要がある。これを念頭に置いて、議題に上げていきたい。
- 島岡部会長： 環境基本計画の生活環境分野で、不法投棄や道路清掃が挙げられている。古賀市は海岸線を持つので、陸域由来の漂着ごみが多い。道路清掃は漂着ごみ対策という意味でも重要である。
- 事務局： 具体的な肉付けはこれからとなる。次の専門部会では、工夫して計画に盛り込んでいきたい。
- 渡邊委員： 剪定枝について、福津市の事業所に持ち込み可能ということで、古賀市の数値の計測ができてないのではないかと。それが分かれば、リサイクル率や資源化率も把握できるのではないかと。
- 事務局： 古賀市からの剪定枝の搬入量は把握しており、リサイクル率にはこれを含めて計算している。林田産業の分は入っている。
- 島岡部会長： 剪定枝はどのような処理がされているのか。コンポストや、肥料を作っているのか。
- 事務局： チップ化している。
- 渡邊委員： 堆肥もできている。
- 島岡部会長： 福岡市はグリーンコンポストとって街路樹の剪定枝等を堆肥化していた。
- 小林委員： 剪定枝関連だが、林田産業へ個人で持ち込みをする以外に何かもう一手はないか。
- 事務局： ごみの収集運搬の対象として、剪定枝を含めているいろいろな要望がきているので、それも含めて今後の検討課題とさせていただきたい。
- 小林委員： 資源物を持って行けない、もしくは頑張れば持って行けるけど、何らかの事情で難しい方がいらっしやる。そこが少しでも救えると変わってくるのではと思う。

○ 渡邊委員： 私もよく利用している。10kg120 円を支払っているが、古賀市が少し補助を出せないのか。それか古賀市で対応できないのか、とってしまった。

● 事務局： そのあたりも含めて、今後の検討課題とさせていただきたい。

○ 島岡部会長： 全体通して何かあるか。厳しく言うと、第2次計画にあって、第3次計画にはない施策、またその逆で新たに追加された施策など第2次が第3次に改定するにあたって、検討した道筋を確認したい。比べられる表があるといい。この項目だけでも確認したい。

● 事務局： 次の審議会で、施策を整理して素案の肉付けとともに次回資料とする。

(4) 第3次古賀市ごみ処理基本計画 構成案 について【資料5】

・資料に基づき、事務局より説明。

・質疑・応答。

○ 島岡部会長： 直接関係しないが、計画期間は10年ということでよいか。環境基本計画やごみ処理基本計画は5年で見直しすることとなるか。

● 事務局： どちらも5年で中間見直しを行う。

5. その他

<事務局からの連絡事項>

・報酬と費用のお支払いについては、審議会分と併せてお支払いを考えている。

・今回の審議会の会議録については会長に議事録の案をお渡しした後、皆さまにお渡しする。

・次回第3回のごみ処理部会は11月初旬を予定している。

6. 閉会
